

最近の管内経済概況

(2021年10月の経済指標を中心として)

～ **新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、
持ち直しの動きに弱さがみられる** ～

最近の動きをみると、

- 生産活動は、弱い動きがみられる。
- 個人消費は、一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- 観光は、一部に持ち直しの兆しがみられる。
- 公共工事は、減少している。
- 住宅建設は、持ち直しの動きがみられる。
- 民間設備投資は、増加している。
- 雇用動向は、弱い動きがみられる。
- 企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる。

なお、先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2021年12月13日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

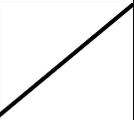
T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2021年12月現在)

発表月	2021年7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月との判断比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、 <u>持ち直しの動きがみられる</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況に <u>あり、持ち直しの動きに弱さがみられる</u>	新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況にあり、持ち直しの動きに弱さがみられる	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	<u>弱い動きがみられる</u>	弱い動きがみられる	
個人消費	持ち直しの動きに弱さがみられる	持ち直しの動きに弱さがみられる	<u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる</u>	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
観光	<u>低迷している</u>	低迷している	低迷している	低迷している	低迷している	<u>一部に持ち直しの兆しがみられる</u>	
公共工事	<u>増加している</u>	増加している	<u>減少している</u>	減少している	減少している	減少している	
住宅建設	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	
民間設備投資	<u>増加している</u>	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇用動向	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	弱い動きがみられる	
企業倒産	件数、負債総額とも減少している	件数、負債総額とも減少している	件数は減少、負債総額は増加している	件数は減少、負債総額は増加している	件数、負債総額とも増加している	件数、負債総額とも減少している	

※下線部は、前月から判断を変更した部分。

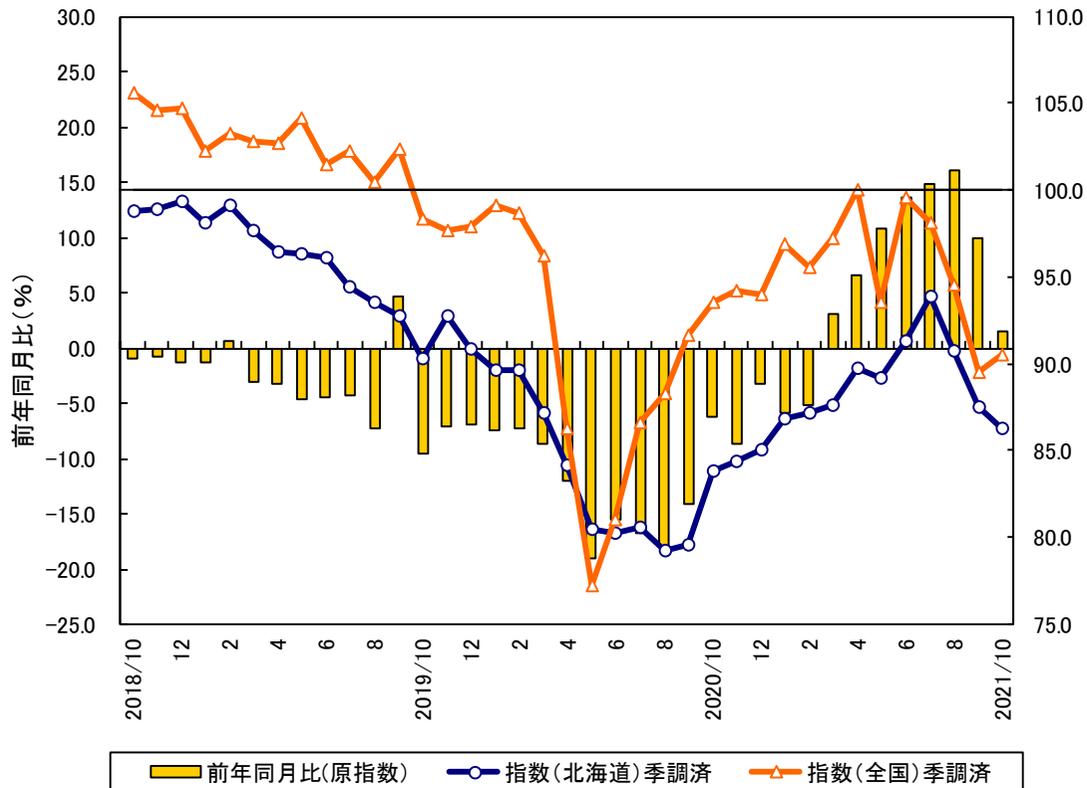
 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 弱い動きがみられる ～

10月の鉱工業生産は、前月比▲1.4%と3か月連続で低下した。
低下業種は、鉄鋼業など7業種となった。上昇業種は、一般機械工業など8業種となった。

<10月>	
季節調整済指数	
北海道(速報)	86.3(前月比▲1.4%)
全国(速報)	90.5(前月比+1.1%)

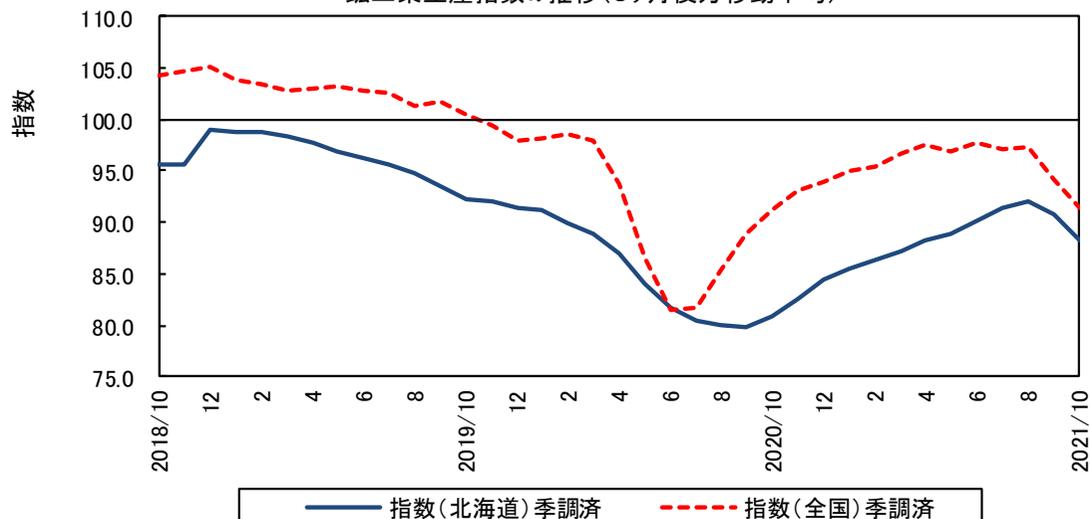
鉱工業生産指数(2015年=100.0)



【ヒアリング内容】

- 自動車産業からの受注が減少したことから、特殊鋼鋼材の生産が減少した。(鉄鋼業)
- サンマなどの水産物が不漁のため、冷凍水産物の生産が減少した。(関係機関)
- 受注が増加したことから、一般機械の生産が増加した。(一般機械工業)
- 東南アジアでの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う部品供給不足の影響が続いており、自動車部品の生産が減少した。11月も当初生産計画から減産するが、12月は前年並みの生産を見込んでいる。(輸送機械工業)

鉱工業生産指数の推移(3ヶ月後方移動平均)



(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

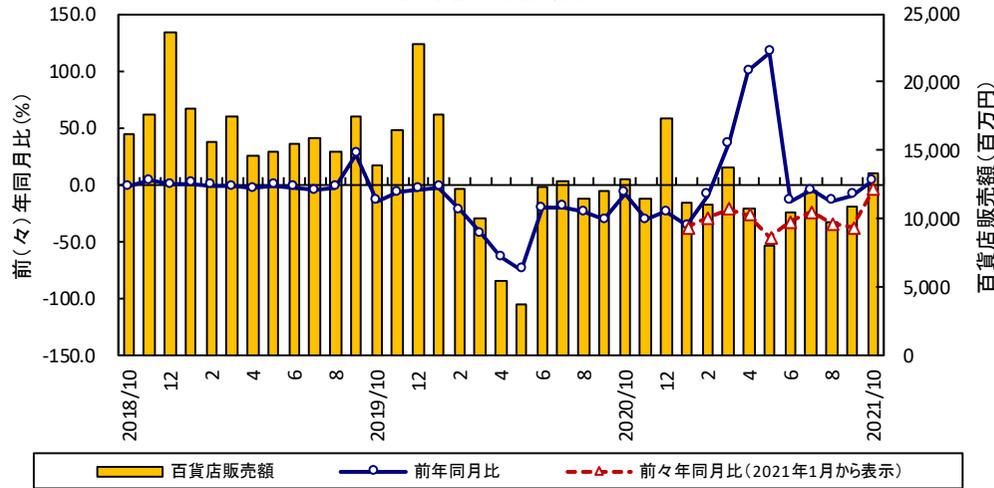
個人消費 ～ 一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる ～

10月の個人消費は、百貨店、スーパー、ホームセンターは前年を上回り、他の4業態は前年を下回った。

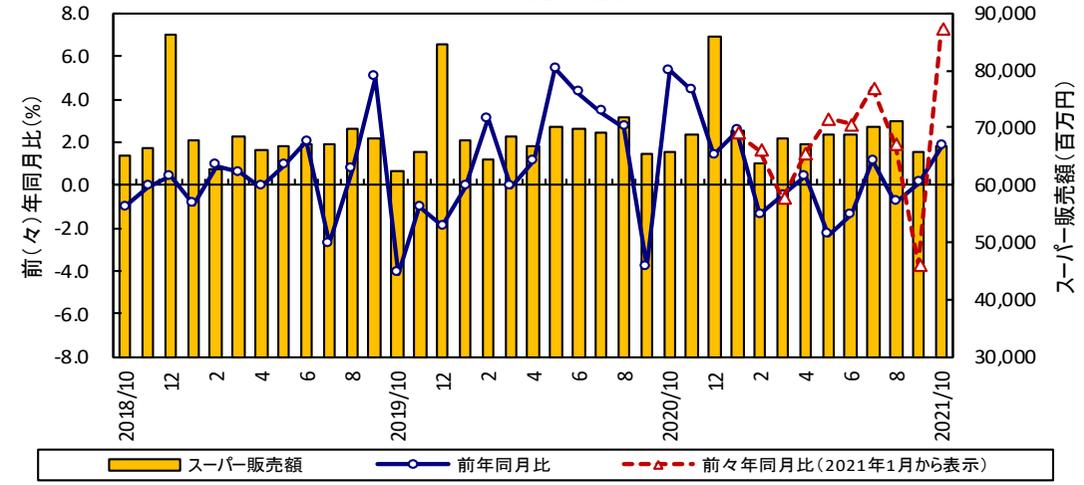
※前々年同月比は、北海道経済産業局「北海道百貨店・スーパー販売動向」掲載の販売額などから算出。

- 百貨店は、緊急事態宣言が解除され客足が戻ってきたことから、衣料品や飲食料品などの売上が好調で、前年同月比+3.7%（前々年同月比▲3.9%）と5か月ぶりに前年を上回った。
- スーパーは、衣料品などの売上が不調だったものの、飲食料品が好調だったことにより、同+1.8%（同+7.3%）と2か月連続で前年を上回った。
- コンビニエンスストアは、同▲0.4%（同▲3.5%）と3か月連続で前年を下回った。

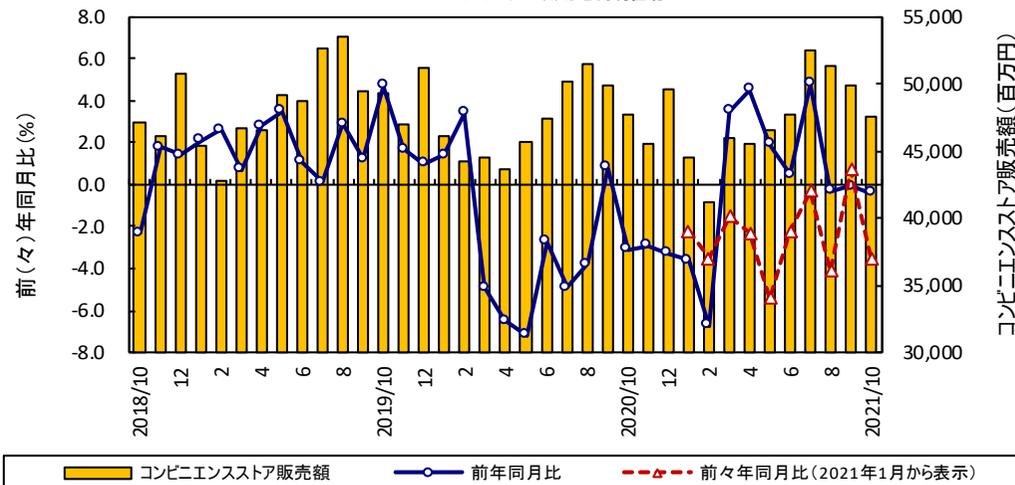
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移



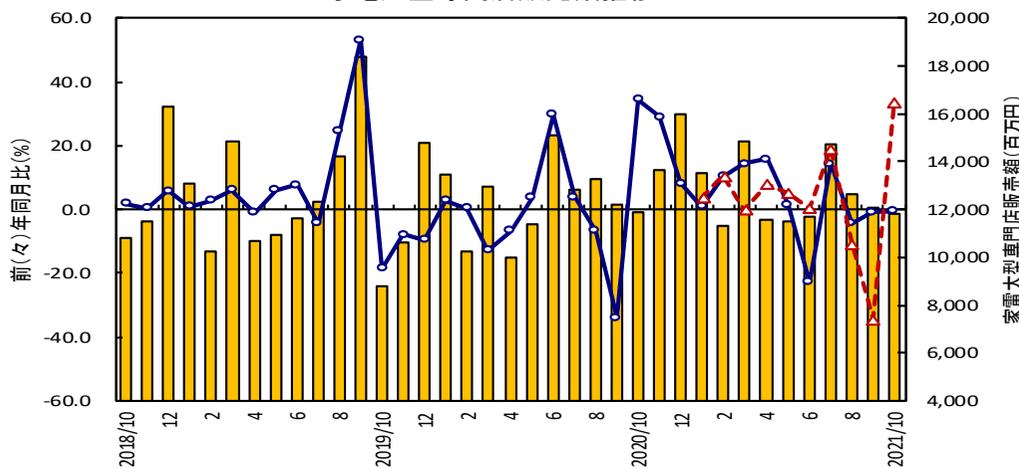
※ 2020年3月に対象事業所の見直しを行ったスーパーの2020年2月以前の販売額については、整合性を図るため調整済み。

【ヒアリング内容】

- 10月は後半から気温が下がり、冬物コートが売れ始めた。おせちの予約も出足から好調である。客足が戻ってきていると感じており、売上は回復傾向にある。
(百貨店)
- 気温の低下とともに、鍋物など冬の食材が売れ始めた。コーヒーや食用油など一部商品が値上げとなったが、買い控えなどの目立った動きはなかった。
(スーパー)
- 緊急事態宣言が解除され、低迷していた繁華街の店舗の売上が、緩やかに伸びてきている。一方で、これまで好調を維持してきた住宅街の店舗は落ち着いてきており、観光地は依然として低迷している。
(コンビニエンスストア)

- 家電販売は、同▲0.4%（同+33.9%）と3か月連続で前年を下回った。ドラッグストアは、同▲0.8%（同▲8.2%）と3か月ぶりに前年を下回った。ホームセンターは、同+2.0%（同+13.5%）と2か月連続で前年を上回った。
- 新車販売は、同▲30.3%（同▲7.2%）と4か月連続で前年を下回った。

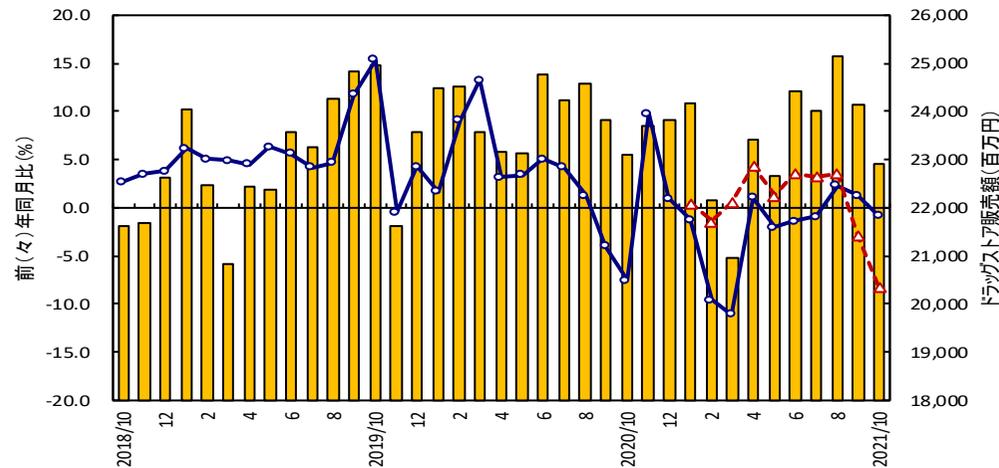
家電大型専門店販売額推移



■ 家電大型専門店販売額 ● 前年同月比 - - - 前々年同月比(2021年1月から表示)

(資料：北海道経済産業局)

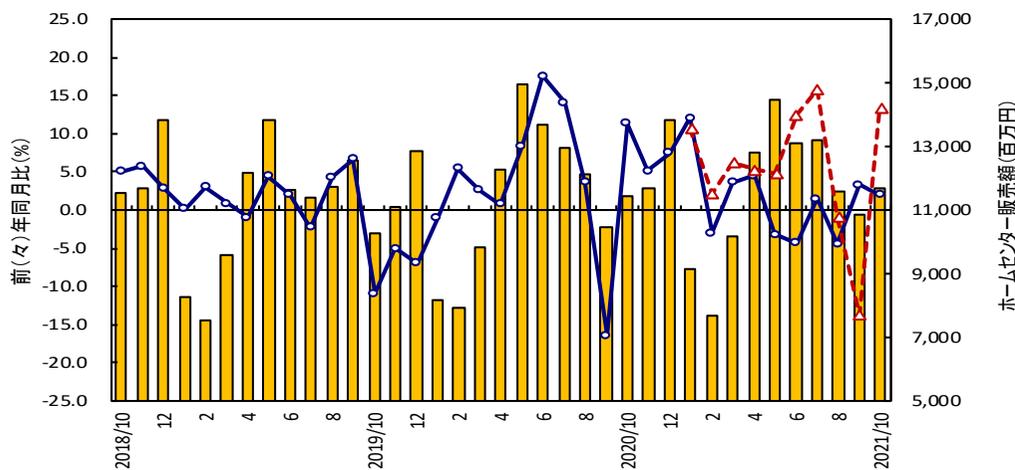
ドラッグストア販売額推移



■ ドラッグストア販売額 ● 前年同月比 - - - 前々年同月比(2021年1月から表示)

(資料：北海道経済産業局)

ホームセンター販売額推移



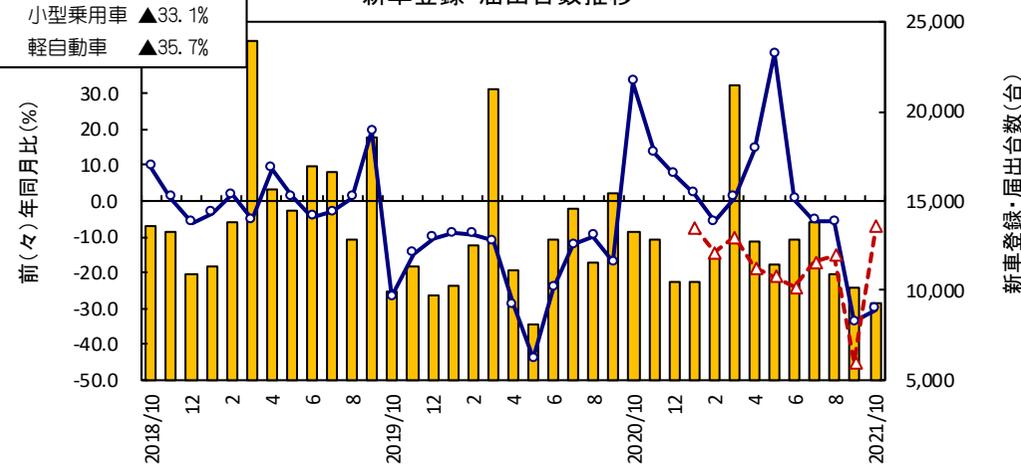
■ ホームセンター販売額 ● 前年同月比 - - - 前々年同月比(2021年1月から表示)

(資料：北海道経済産業局)

<10月>

- 普通乗用車 ▲22.1%
- 小型乗用車 ▲33.1%
- 軽自動車 ▲35.7%

新車登録・届出台数推移



■ 新車登録・届出台数 ● 前年同月比 - - - 前々年同月比(2021年1月から表示)

(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

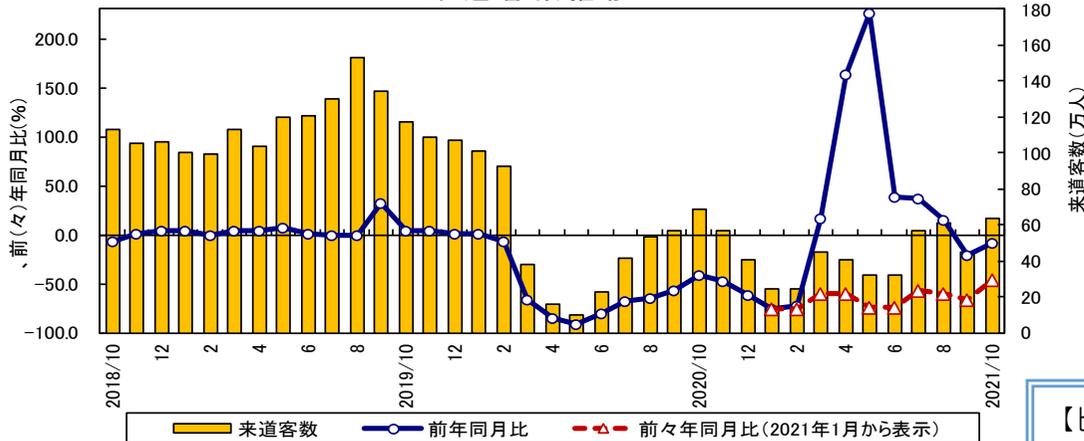
【ヒアリング内容】

- 巣ごもり需要などで好調だった調理家電の売上が落ち着いてきた。緊急事態宣言の解除による影響は顕著にはみられない。今後、外出機会の増加に伴い購買行動がどのように変化するのか予測が難しい。(家電大型専門店)
- 不織布マスクが堅調に売れている。新型コロナウイルス感染症の拡大以降、外出機会の減少などにより口紅など化粧品の売上が伸び悩んでいたが、緊急事態宣言の解除後も、回復するまでには至っていない。(ドラッグストア)
- 月の後半以降、冬が近づくにつれて自宅用の断熱・結露対策商品、防寒用手袋、補助暖房機などの冬物商品が売れ始めた。(ホームセンター)

観光 ～ 一部に持ち直しの兆しがみられる ～

10月の来道客数は、前年同月比▲7.9%（前々年同月比▲46.1%）と2か月連続で前年を下回った。また、道内外国人入国者数は、0人で前年同月と同数となった。

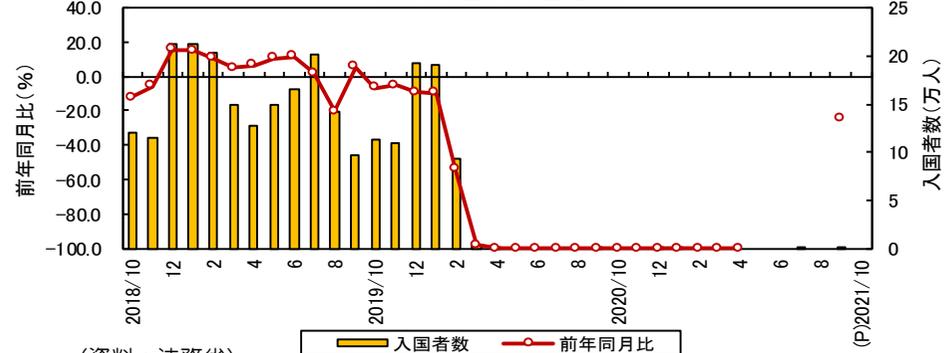
来道客数推移



<10月> 来道客数 634,017人 (▲7.9%)
 ※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
 ※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

(資料：(公社)北海道観光振興機構)

道内外国人入国者数



(資料：法務省)

注(P)は速報値

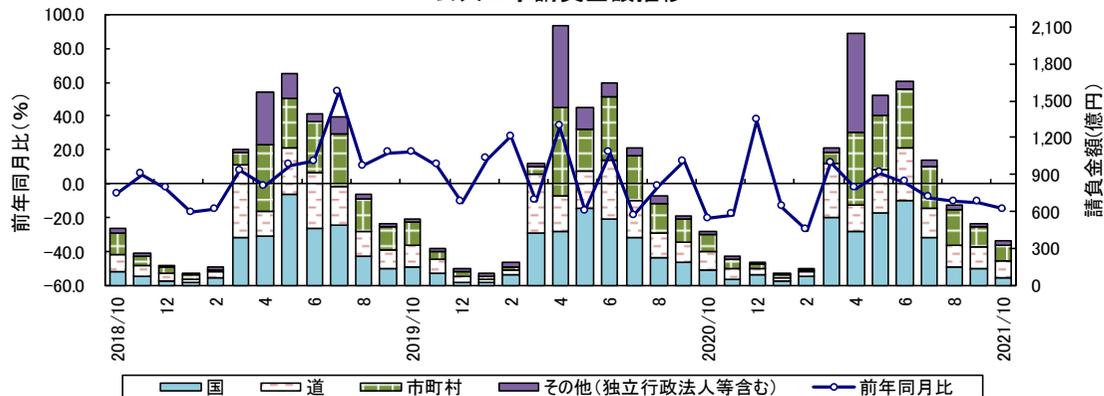
【ヒアリング内容】

- ・10月は緊急事態宣言が解除となり、ワクチン接種の効果もあったのか、幅広い年齢層で観光客の姿が見られた。宿泊施設では、週末は満室に近い稼働率で、延期されていた修学旅行の予約も入るなど、持ち直しつつあるようだ。（関係機関）
- ・11月は、自治体による宿泊助成のキャンペーンの効果もあり、道内客を中心に好調に推移した。（宿泊業）

公共工事 ～ 減少している ～

10月の公共工事請負金額は、国、道、市町村の全てで前年を下回り、前年同月比▲14.8%と4か月連続で前年を下回った。

公共工事請負金額推移



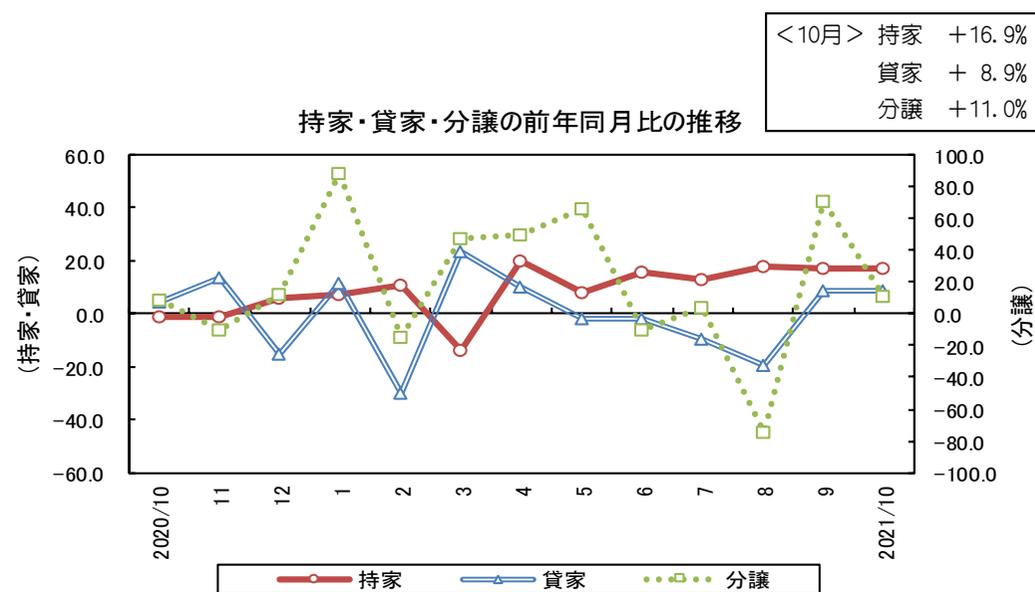
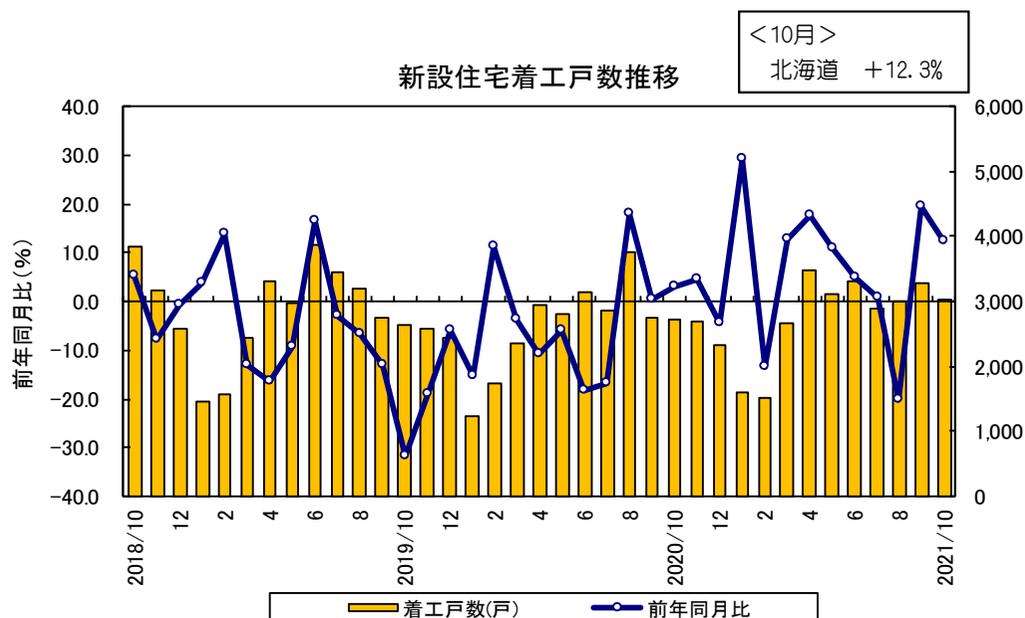
<10月>
 北海道 ▲14.8%
 (内訳)
 国 ▲49.6% 道 ▲5.7% 市町村 ▲7.7% その他 +90.9%

(請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額)

(資料：北海道建設業信用保証(株)ほか2社)

住宅建設 ～ 持ち直しの動きがみられる ～

10月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲の全てで前年を上回り、前年同月比+12.3%と2か月連続で前年を上回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2021年度の設備投資計画は、全体で前年度比+4.2%と2年ぶりに前年度を上回る計画となっている。

日銀短観の設備投資動向

2021年10月1日発表

	2020年度	2021年度
北海道	▲ 19.9%	+ 4.2%
製造業	▲ 4.0%	▲ 23.6%
非製造業	▲ 27.5%	+ 21.8%
全国	▲ 8.5%	+ 7.9%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2021年9月13日発表

	2020年度	2021年度
全産業	▲ 8.6%	▲ 6.3%
製造業	▲ 17.7%	▲ 23.8%
非製造業	▲ 2.9%	+ 0.9%

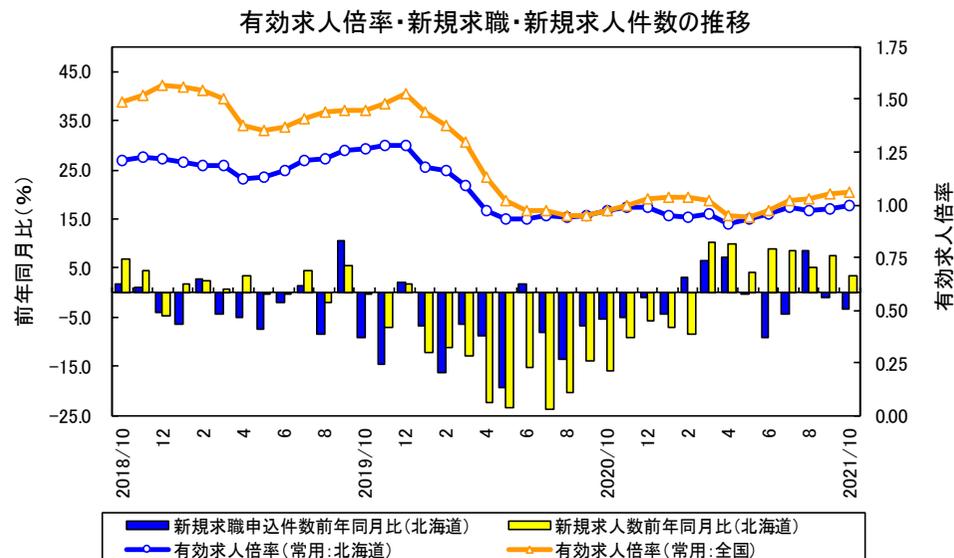
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

雇用動向 ～ 弱い動きがみられる ～

10月の有効求人倍率は、1.00倍と前年同月差0.03ポイント上昇し、5か月連続で前年を上回った。

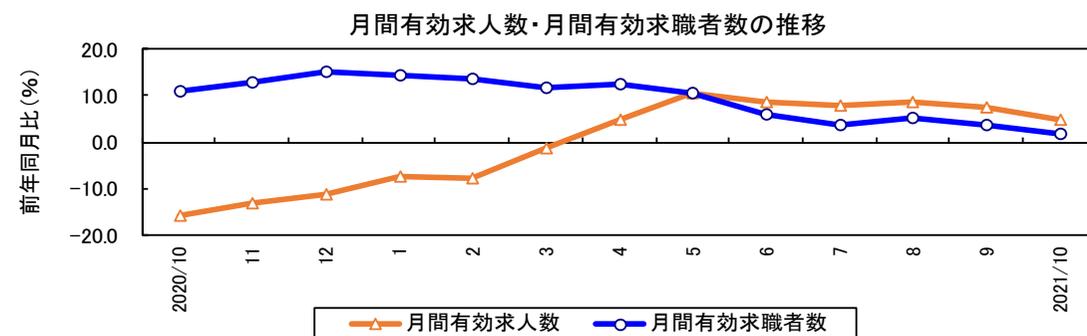


<10月>

北海道	有効求人倍率(常用)	1.00倍
	新規求人件数(前年同月比)	+ 3.5%
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲ 3.3%
全国	有効求人倍率(常用)	1.06倍

<10月>

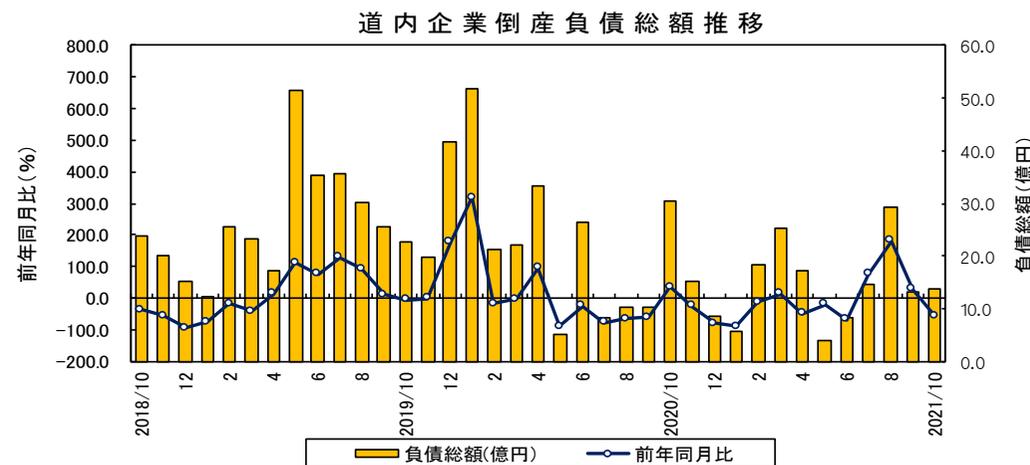
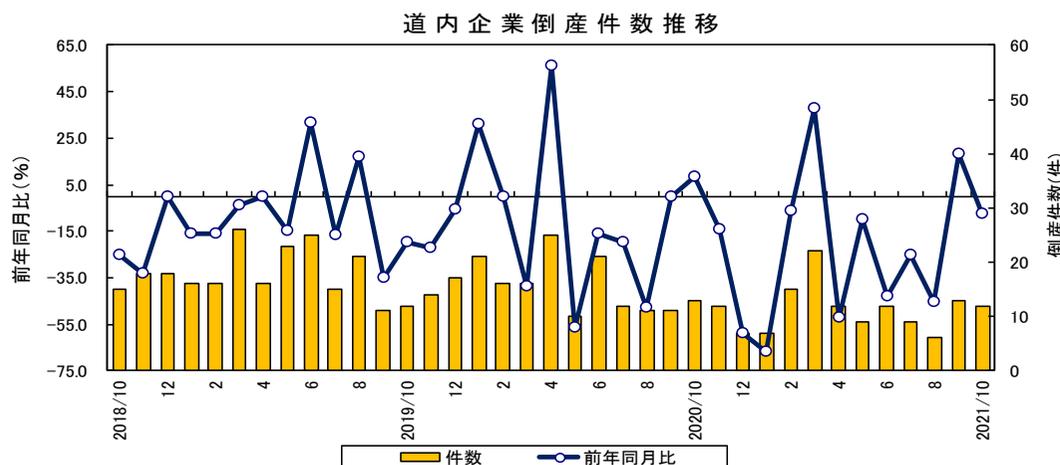
月間有効求人人数	(前年同月比) + 4.9%
月間有効求職者数	(前年同月比) + 1.8%



(資料: 厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも減少している ～

10月の倒産件数は12件で、前年同月比▲7.7% (1件減) と2か月ぶりに前年を下回った。また、負債総額は13.6億円で、同▲55.4%と4か月ぶりに前年を下回った。



(資料: (株)東京商工リサーチ)